

5月2~4日の3日間、熊本における今後の支援活動に向け、第2回のニーズアセスメント調査と関係者の方とのネットワーク構築を行ってまいりました。小学校の教員の方、教育委員会の方、また国際交流会館の方などとお話しをすることができ、具体的な支援に向け、一歩を踏み出しました。今回は、5月4日の活動をメインに報告をいたします。

避難所の小学校の教頭先生からお話を伺う

午前中は、熊本市東区の東町小学校を訪問し、同校の教頭先生、特別支援学級の先生とお話することができた。東町小学校では、震災直後から三週間、教師と自治会が避難所を自主運営。5月10日に学校は再開する予定だが、慣れない避難所運営に24時間体制で携わってきた生活から一転、遅れてしまった学校運営再開の準備を進めることや、学校に戻ってくる子どもたちへの対応などに不安を感じられている様子が伺われた。またその後、熊本市教育委員会総合支援課の課長、特別支援教育室長と面会。JISPの団体説明を行うと共に、現状のニーズをヒアリングさせていただいた。中長期間実施される教師、生徒向けのアクティビティに興味をお持ちいただき、今後の実施に向け検討をしていただくこととなった。



▲くまモンのセッションも実現!

親子に向けたアートアクティビティを実施

その後、車中泊をしている避難者の方が多いグランメッセ 益城を訪問し、子どもに向けたアートや音楽を使ったアクティビティ、またその保護者の方に向けた相談会を実施。20名ほどのお子さんと保護者の方にご参加いただいた。お母さんたちからは、震災後の子どもの落ち着きのなさや、夜間に連続発生した地震のせいで、いまだに家で寝ることが不安なこと、などが語られた。



▲広安西小学校での子ども向けアートワークショップの様子。

外国人の支援ニーズをヒアリング

夕方からは、国際交流会館にて、事務局長と次長から外国人住民への心理社会支援ニーズをヒアリング。同会館は震災直後に、外国人住民の避難生活、法律などの相談を受けるために生活相談会を実施し、約60名の外国人が来訪した。しかしその中で予想以上に多かったのが、心理相談のニーズだった。言語・宗教・文化の問題から孤立している住民も多く、相談できる相手がないこともその背景にあるようだった。そうした状況を受け、5月8日に予定されている2回目の相談会に向け、JISPに「こころの相談」ブースへの協力要請をいただいた。



▲被災された外国人の方々。マイノリティ支援が求められている。

熊本支援活動への寄付をお考えの方は、下記の口座までお振込をお願いします

ゆうちょ銀行から 記号 18100 番号 6992821 ゆうちょ銀行以外の銀行から 普通預金 店番号 818 口座番号 0699282

※お振込みいただいた後、下記のお問い合わせ電話番号にご連絡いただけますようお願い致します。